

特集！！ハルちゃんが行く！！

～津野町森林組合 木材自動選別機～



ハルちゃん

今回は津野町森林組合の朝見谷貯木場（津野町船戸）に新しく入った、木材自動選別機をご紹介します。選別機の導入には、地域の木材の流通を活性化するための支援のひとつである平成28年度高知県木材加工流通施設整備事業費補助金を利用しました。



全長約9.5m



新しく導入された木材自動選別機

ミカンやトマトなどの農産物を出荷する際、大きさや等級ごとに選別が行われているのはよく知られていることでしょう。実は丸太も出荷する際には直径（太さ）や材長（長さ）、質（曲がりや割れ）ごとに選別され、品質の揃った商品をまとめて取引されています。

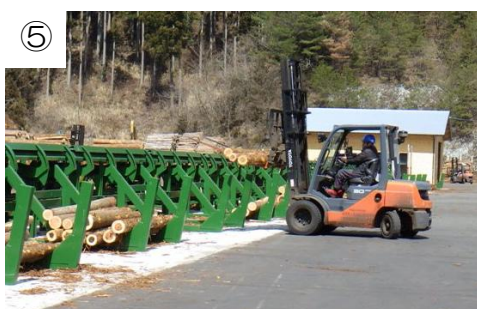
木材は一本が数十～百kg前後と重く、また材長は主に3～6mと大きいので、取扱が大変です。津野町森林組合では、これまでは右の写真のように、一本一本手作業で直径を測って選別していました。これまでの手作業での選別によって処理できる丸太は、一日800本ほどが限界でしたが、この木材自動選別機では最大で一日4500本ほど処理できます。



この木材自動選別機はシーケイエス・チューキ社製で全長は約9.5mです。ポケットと呼ばれる丸太の振り分け先が30個あり、1つのポケットに1種類の丸太を落とす設定にすると30種類に選別できます（設定により、1つのポケットに複数の種類を落とすこともできます）。

次のページでは、丸太がどのように分けられるかを見てみましょう。

木材自動選別機での選別は、まず丸太をフォークリフトで投入して、一本ずつ流していきます(①)。オペレーターが曲がり等を判断(②)したら、レーザーを当てて自動的に直径を計測し、直径や形状ごとにポケットに振り分け(③④)、フォークリフトで回収(⑤)すれば早く・楽に選別ができます(⑥)。



平成 29 年度からこの選木機が本格的に稼働すると、いままでよりも丸太を効率よく流通させることができ、木材の増産につながります。この貯木場で扱う丸太はほとんどが津野町の森林から伐り出されたものであり、地域の産業の活性化にも貢献すると期待されます。